

---

## 編集後記

---

昨年4月の診療報酬改定から1年が経過いたしました。すべての透析医療施設において、患者さんのためには透析医療の質を落とさないで、何とか合理化に努めておられることとお察し申し上げます。このような時期にこそ透析医会活動の意義が有るのではないのでしょうか。透析医会会長の山崎先生には、巻頭言で透析医会支部の活動について貴重なご提言をいただきました。

本号では、先日開催されました「透析医療における Current topics 2003」を特集として取り上げました。最近のトピックスである新しい経口リン吸着薬、腹膜透析と血液透析併用療法、貧血とカルニチン、透析量、透析医療における看護度について、諸先生方の卓越した御講演内容の玉稿を掲載させて頂きました。医療安全対策では、東海地震が危惧されている折であり、海上支援ネットによる危機管理について神戸商船大学の井上先生に寄稿して頂きました。臨床と研究では腎移植の統計調査をお纏めになられている太田医学研究所の太田先生にわが国における腎移植の現状と問題点について、クリニカルパスについて早くから取り組んでおられる済生会熊本病院の副島先生に透析医療におけるクリニカルパスについて、諸外国の事情にお詳しい東海大学総合医科学研究所の齋藤先生には諸外国の透析医療事情についてお書き頂きました。それぞれこれからの日本の透析医療を考えるうえで大変貴重なご提言を頂きました。その他、各支部での3つの特別講演の内容をご寄稿頂きました。それぞれ素晴らしい内容であり、各支部での会員の皆様の研修にお役にたつことが推察されます。研究助成が掲載いたしました2つの論文に結実しています。先日の総会に出席なされなかった会員の皆様におかれては、総会資料と決定事項のご確認が頂けるように掲載いたしました。

最後に、あらためてご寄稿頂いた先生方に感謝申し上げますとともに、本号が会員の皆様の日頃の透析医療のお役にたつことをお祈り申し上げます。

原田孝司